

無い。

ホリカハカタハラマチ 堀川片原町 金澤の舊町名。元祿九年の地子町肝煎裁許附に、堀川片原町・龜瀨町と並べ載せてある。今は廢せられてこの名がない。

ホリカハカハヨケマチ 堀川川除町 金澤の舊町名。淺野川下流左岸の川除地である。今は廢せられた。

ホリカハガメブチマチ 堀川龜瀨町 金澤の舊町名。堀川の一部であつたが、今はその名が無い。

ホリカハナナツヤ 堀川七ッ屋 金澤の舊町名。今は七ッ屋町と呼ぶ。此の地は元石川郡下安江の地内で、昔は七戸の民家があつた故の名である。

ホリカヘシン 堀替新 羽咋郡邑知院内尾長保に屬する部落。寛文二年飯山川を堀替へ、新開の田を起したより初る。

ホリカモン 堀替部 父五郎左衛門は堀秀政の臣であつた。掃部初めて前田利長に仕へて千石を受け、寛永十六年隱居した。その子孫藩に世襲する。

ホリカンゲ 堀觀解 鹿島郡下會禰眞宗東派光源寺の僧。高倉學寮に學び、員外擬議より進んで學師となり、明治三十五年十月十五日七十四歳を以て寂。法名本正院。

ホリキユウエモン 堀久右衛門 祿二百石。堀與八郎の子で、大坂再役に出陣し、五月七日黒門内に於いて奮戦して創を受け、十六日に死んだ。子孫世々藩に仕へる。

ホリキリ 堀切 河北郡五ヶ庄に屬する部落。

ホリキリヤマゴシロウ 堀切屋孫四郎 石

川郡宮腰の町人で、筆を行商するを業としたが、越前横地村に於いて、無賴漢金四郎の爲に金銭を奪はれたるを怒り、劍術を學ぶこと數年の後往きて之を殺害した。是を以て自首して福井藩に禁獄せられたが、後金澤に送られ、寛政二年死刑に處せられた。

ホリキリワン 堀切灣 江沼郡の最西端で、鹽屋の部落之に沿ひ、水を隔て、越前吉崎に相對し、大聖寺川こゝに流入する。↓シホヤ鹽屋。

ホリグチソウヤ 堀口草也 又宗也に作る。堀口氏の由緒帳によれば、草也初め堀監物の子小姓として二百石を領したが、後牢人して横山長知に百五十石を受けた。然るに草也は不足を申立て、退去したから、長知の爲に擔はれ、江沼郡山代に引籠り、前田利常の指圖にて大聖寺侯利治から二十石を賜はり、翌年十石を加増せられて、寛文八年に病死したとある。享保録に、利常・利治は山代に屋形及び湯所の圃を造り、宗也をして湯本の惣支配たらしめた所、或年越前侯松平但馬守來つてこの浴場に入らんとしたが、宗也は許さなかつた。この事後に利常の聽く所となり、宗也を小松菟島の亭に召して酒肴を賜うたと記する。

ホリグチヤサブロウ 堀口彌三郎 堀口草也の子。承應三年に召出され、明暦二年百石を賜はり、公事場の牢屋鍵番を命ぜられた。寛文十一年の土帳に、百石籠奉行堀口彌三郎四十八歳とあるものである。萬治三年の圖に公事場の左隣にその邸宅があつた。彌三郎の孫彌太郎は百石の定番馬廻で、小姓町に居たが、正徳二年追放せられた。

ホリコシ 堀腰 鳳至郡本郷に屬する部落。惣持寺文書永和四年卯月廿七日沙彌芝の寄進狀に「寄寄進能登國橋比庄うちほむらの中ほりこしに田一たん云々」とあるから、當時堀腰は内保村に屬してゐたのである。

ホリコシイシ 堀腰石 鳳至郡堀腰に産する石材。輝石安山岩質凝灰岩で、駝色の安山岩質石基中に、白色及び黒色の砂礫を含み、質は硬い。

ホリコシゲンエモン 堀越源右衛門 元年召抱へられて百石を賜はり、御壁塗を勤めた。堀越左源次の祖である。

ホリコシサクタロウ 堀越朝太郎 二代左源次の子。後名を兵之助と改めた。松籬風琴と號し、狂歌を善くしたが、父に先だつて安政六年十月十三日歿した。享年四十九。

ホリコシサゲンジ 堀越左源次 藩の御壁塗を職とした。多藝にして奇智に富み、狂歌を好んで阿北齋雀翁と號した。文化七年八月十六日歿、享年六十四。法諡本成院珍雄日光居士。

ホリコシサゲンジ 堀越左源次 阿北齋雀翁の子で、左源次二代目である。文政七年父の後を受けて加賀藩の御壁塗を襲ぎ、御扶持方から進んで天保九年新知九十石を受けるに至つた。左源次父に學んで狂歌を善くし、勤勁庵音琴と號し、萬延元年五月六日八十三歳を以て歿した。金澤卯辰本光寺に葬る。法諡本覺院常住日長居士。

ホリゴヘエ 堀五兵衛 一向一揆の徒。卯月朔日附金澤に於ける第一討捕に對する侍従法橋頼純の感狀、十二月八日附撞演夜討の際第一討捕に對する刑部卿法限頼介(頼廉)の

感狀、及び同日附串村夜討に於いて第一討捕に對する刑部卿法限頼介の感狀があるが、その年紀は全く考へられぬ。又寛永八年八月廿二日附堀五兵衛の口上書なるものには、江沼郡日野谷合戦に第一討捕り、能美郡栗津合戦に合戦し、金澤城尾坂口に敵を突倒して功を三林久藏に譲り、江沼郡黒谷合戦に合戦し、同郡石坂合戦にも負傷、その他作見及び菅生浪の駈合に首各一、龍之原の夜討に首一つを獲たことを載せるが、これにも年紀を載せぬのみか、戦功の場所が多くかの感狀と一致せぬから、前記の五兵衛と同人か父子かも明らかでない。只頼純の於金澤と書いたものは、口上書の尾坂口の戦と似てゐるが、これは三林久藏に功を譲つて、久藏が賞賜を受けらるるのであるから、五兵衛が感狀を授けられる筈がない。因りて考へるに、某年卯月十一日附佐藤九郎右衛門宛の朝倉義景の感狀に、『去月十二日加州凶徒至金津上野出張』とあつて、時期正に相當するから、かの金澤と記されるものは、金津を誤寫したものであらうと思はれる。

ホリゴメムネシゲ 堀籠宗重 通稱六郎左衛門。正平八年(文和二)六月天野安藝三郎遠政代堀籠六郎左衛門宗重の軍忠狀に、去年六月七月及び今年四月吉見三河守氏頼に従うて、越中に入り桃井播磨守直常等を討つたこと、及び正平十年(文和四)七月の同軍忠狀に、今年三月十七日能登路西方金頸城に據つた長胤連一族を討つて、六月十四日之を追落したことが見える。天野遠政は能登島東方の地頭職であつた。

ホリサイノスケ 堀才之助 一向一揆の時